東京都の「海の森」での植林活動
「海の森」は、東京湾中央防波堤埋立地・産業廃棄物場を森にする取組。

フォレスト・サポーターズ
美しい森林づくり推進国民運動

生物多様性を加味した森林保全活動を通じて「環境経営のトップランナー」を目指す
――積水化学工業株式会社

生物多様性の保全
近くの森林試験場でドングリと苗を拾い、植林地の苗床に植え付ける。
（和歌山県水上試験場研究林）

積水化学工業株式会社の環境経営について説明するCSR部環境経営グループの柳井俊郎さん。

森をささえよう　森と暮らそう

積水化学工業株式会社は今年3月に「フォレスト・サポーターズ」の主旨に賛同し、メンバーの一員となりました。同社は、2030年度の「環境フロンティア社会」実現を目指す長期ビジョンを策定。これを基に新環境中期計画「環境トップランナープラン・SHINKA!」を進めています。地球温暖化防止、資源循環、生物多様性の保全など、多岐にわたる環境経営計画の中から、「フォレスト・サポーターズ」の4つのアクションに関連する取組についてCSR部環境経営グループの柳井さんに聞きました。

積水化学グループは、事業活動を通じた社会貢献を経営の柱に掲げ、CSR経営を展開しています。その中でも環境への取組は重要な柱で、1つは、事業・製品を通しての貢献、2つ目に事業活動のプロセスでの環境負荷低減、3つ目は生物多様性保全活動や自然保護活動を通じた貢献を掲げて、環境経営のトップランナーを目指します。そのため2009年度スタートの環境中期計画を策定するに当っては、2030年という長期ビジョンで目指す「環境フロンティア社会」を人々に環境意識と環境に配慮したライフスタイルが広く定着し、企業や行政においても「環境」がもっとも重要な価値の一つとなっている社会と位置付け、この実現に向けてエコロジーとエコノミーを両立させる事業活動をグローバルに進めています。

中でも森林との関わりが深いのが、〝森と水〟をテーマにした生物多様性保全と自然保護活動。この取組は、①生物多様性保全への貢献、②次世代への環境教育、③地域との連携をテーマにしています。

1つ目の生物多様性への保全への貢献については、生物多様性からは人類を含む全ての生物はもちろん、企業活動もさまざまな恩恵を受けています。例えば、水・木材・化石燃料など自然資源利用による原料調達、土地や景観などの自然の地形利用、それに自然から技術開発のヒントを学ぶバイオミミクリー（biomimicry＝生物模倣技術）などがこれに当たります。そのため、生物多様性の保全や持続可能な利用は、いまや企業にとって重要な課題となっています。こうした認識に立ち、積水化学グループでは2008年4月の環境経営方針改訂において、生物多様性保全の視点を新たに盛り込みました。今後は、事業活動における生物多様性への影響を評価し、具体的な課題を明らかにした上で私

フォレスト・サポーターズ

4つのアクション活動紹介

和歌山の「積水化学の森」植林風景
森林資源を所有者から無償で借り、環境貢献活動のフィールドとして活用しています。

環境リーダー研修
北海道の東大富良野演習林には、積水化学が里親寄付をしたかつらの樹(樹齢800年)がある。

富士山麓山林で違法投棄ごみ回収
NPO富士山クラブの指導で社員とOBのボランティアにより実施。

京都「仙の森」
南山城村の自然林42haで、府・村と協定を結び森林整備活動を実施。

今日からやろう！森のための

4つのアクション

森にふれよう

木をつかおう

たちのもつ技術や資源を活用して解決を図っていくと同時に、ビジネスチャンスとして生物多様性をキーとした事業、フラッグシップ商品の開発を進めます。

2つ目の次世代への環境教育については、環境教育を目的とした「積水化学自然塾」の開催です。これは各事業所における自然保護活動のリーダーを育成するため、1997年度から実施している自然体験型の環境教育研修です。年4回開催しており、これまでに自然生態系の基礎知識やボランティア活動の進め方を受講した延べ300名を超える環境リーダーが誕生し、各事業所で自然保護活動を推進しています。

3つ目の地域との連携については、多様な郷土種が共存する豊かな森づくりへの取組として、「グリーンフォレスト活動」を展開しています。この活動の特徴は、植林や下草刈り、間伐といった森林保全活動のなかに、郷土種の苗を育てる活動が含まれていること。種拾いによって集めたドングリなどを苗床に植え、スギやヒノキではなく、広葉樹や落葉樹などの郷土種を植樹しています。

グリーンフォレスト活動は、地域の事業所が地元住民や学校、NGOの方々の協力を得て、現在は京都府の「仙の森」、群馬県の「積水四季の森」、山口県の「積水の森」、和歌山県の「積水化学の森」、そして東京都の「海の森」の5つの地域で新しい森林づくりに取組んでいます。

このほかにも、公益信託日本経団連自然保護基金とのタイアップにより、環境NGOが国内外で進めている自然保護活動への支援でも、経済面だけではなく、従業員の派遣など人材面でも協力を行っており、これまでに延べ71件のプロジェクトを支援してきました。

現在、NGOや自治体と協働したパートナーシップ活動として、国内各地での森林保全活動や棚田の再生やCOP10に向けたラムサール湿地保全のKODOMOバイオダイバシティー活動などをすすめています。こうした取組には、従業員と家族をはじめ、地域住民や顧客の皆さんなどに参加していただいており、従業員一人ひとりが自らの意思で、積極的に環境問題や自然保護活動への関心を持つ文化・風土づくりが進められています。

これらの環境経営を通じて、今後も日本の森林保全活動に貢献できればと思っています。